

秋田方言における「(ニ) ガッテ」の用法と若年層における新方言

堀川 知之

(東アジア課程 中国語専攻)

キーワード：秋田方言、受身、助詞、「ニガッテ」、「サガッテ」

0. はじめに

本稿の目的は、第一に秋田方言における「(ニ) ガッテ」の用法を明らかにすることである。従来の研究では「(ニ) ガッテ」は受身の動作主を表す助詞であり、多くは被動者にとって不利益な場合に使われるということである。しかし、実際にはこの条件に該当しない例が決して少なくはないように思う。そこで本稿では、一般的ではないとされている用法が、どの程度許容されているのかということアンケート調査により明らかにする。第二の目的は、卒業論文の受身の動作主を表す助詞の使い分けの調査時に、10代のインフォーマントから聞くことができた「(ニ) ガッテ」の「ニ」が「サ」に入れ替わったと思われる「サガッテ」という助詞の調査である。なお、例文番号は筆者¹による。

1. 先行研究

1.1. 日高 (2000)

以下、日高 (2000) の要約である (脚注、下線は筆者による)。

「レル・ラレル」による受身では、(1) の直接受身²、(2) の持ち主の受身の場合は「ニガッテ」を用いるのが普通である。

(1) タローダバ ジロー ニガッテ タダガレダ (タダガエダ)³
「太郎は次郎に叩かれた」

(2) タローダバ スリ ニガッテ カバン トラレダ (トラエダ)
「太郎はスリに鞆を取られた」

ただし、「レル・ラレル」による受身の場合であっても、以下のように当該行為が恩恵的なものであれば「カラ」を用いる傾向が強い。

(3) タローダバ ジロー ガラ アンブネドゴ シケラレダ
「太郎は次郎に危ないところを助けられた」

(日高 2000: 102 を要約)

¹ 筆者は秋田県秋田市の出身であり、秋田方言を母語とする。

² まどもの受身という言い方もあるが、本稿では直接受身に統一する。

³ 秋田方言では、「レル・ラレル」の [r] が脱落し、「エ」となることが多い (日高 2000: 102)。

1.2. 北条 (1975)

北条 (1975) は、秋田方言の受身の動作主を表す助詞「ニガッテ」について以下のように述べている (例文の下線、標準語訳は筆者による)。

「雨に打たれる」の「ニ」は、北奥羽全般で「ニガテ」「ニカテ」「ガテ」などで表される。原形はニカッテである。この原形が使用されている地域の例を以下に挙げる。

- (4) コドモ エ (ニ) カガッテ ネムラレネア
「子供のせいで眠れない」

イヌ ガテ カジラエル (犬にかじられる)、ワラシ ガテ カギ トラエル (子供に柿を取られる)、アメ エカガテ イガエネ (雨のために行けない) など、多く被動者にとって不利益な場合に使われる。

(北条 1975: 191 を要約)

北条 (1975) の用例を見る限り、「ニガテ」(ニカッテ) には「～で」(原因)、「～のせいで」といった意味があり、必ずしも受身の動作主を表す助詞として使われているわけではないことがわかる。

1.3. 国立国語研究所編 (2006)

以下の例文は、国立国語研究所編 (2006) で見られたものである。

- (5) オメア ニガッテ ユアエダ (あなたに言われた)

(国立国語研究所編 2006: 185)

自然的受身形として受け取られやすい「言われる」に「ニガッテ」が使われている例文である。これは必ずしも被動者が不利益を受けているとは言えない例である。

1.4. 先行研究のまとめと問題提起

「ニガッテ」に関する記述は少ないが、従来の先行研究で言われてきた「ニガッテ」の一般的な用法は、受身の動作主を表す助詞であり、多く被動者にとって不利益な場合に使われるという2点である。しかし筆者の内省では、この条件に該当しない例というものも決して少なくないように思われる。本稿では、一般的ではないとされている「ニガッテ」の用法が、実際にはどのぐらい許容されているのかをアンケート調査により明らかにする。

2. 「ニガッテ」の用法に関する調査

2.1. 調査方法

秋田県内の30代～60代の男女にアンケート用紙を配布して記入してもらった形式をとった。「ニガッテ」の一般的な用法に該当しない例文(I)～(VI)について、問題なく使えると思う場合は○、使えなくはないが多少違和感があると思う場合は△、明らかにおかしいまたは間違っていると思う場合は×を書いてもらった。下記の例文を用いた理由として、まずこの調査をするきっかけとなったのが、(III)と(IV)の能動文である。これは以前筆者の家族が、実際に使った文である。しかし、一般的に使用されているのかどうかわからなかったため、調べる必要があった。次に、(III)と(IV)を除く例文だが、これらは、被動者にとって不利益な場合に使われるという条件(従来の先行研究における「ニガッテ」の一般的な使用条件の一つ)に該当しないものである(但し、(I)は両方の解釈ができる)。これらの文で高い許容度があるという結果になれば、「ニガッテ」は必ずしも被動者にとって不利益な場合に使われるとは限らないことが立証される。アンケートに使った例文は以下の通りである。調査時期は2009年10月で、秋田県秋田市にて調査を行った。

- (I) キシャノ オド ニガッテ メ サマシタ ()
「汽車の音で目を覚ました」
- (II) オメ ニガッテ ホントウ セワニナッタ ()
「あなたには本当にお世話になりました」
- (III) オメ ニガッテ ホントウ マイッテシマウ ()
「あなたには本当に参ってしまう」
- (IV) ユギ ニガッテ ソド アルガエネ ()
「雪のため(雪が多くて)外を歩けない」
- (V) ゲンジモノガタリ ハ ムラサキシキブ ニガッテ カガレダ ()
「源氏物語は紫式部によって書かれた」
- (VI) ヤマノ テッペン ユギ ニガッテ オオワレデダ ()
「山頂は雪で覆われている」

2.2. 調査結果

アンケートを回収できたのは32名で(男:16名、女:16名)、すべて言語形成期を秋田県内で過ごした人である。年齢層は30代(男:3、女:6)、40代(男:2、女:2)、50代(男:8、女:6)、60代(男:3、女:2)である。秋田市(中央方言)のインフォーマントを中心に調査を行ったため、出身地による比較はできなかった。下記の表は北部方言(3名)と南部方言(3名)のインフォーマントの調査結果もまとめて集計したものである。

表 1: 例文 I ~VIの調査結果

		○		△		×	
		男	女	男	女	男	女
I	30代 (男:3、女:6)	2	5	1	1	0	0
	40代 (男:2、女:2)	1	2	1	0	0	0
	50代 (男:8、女:6)	4	4	3	2	1	0
	60代 (男:3、女:2)	2	1	1	1	0	0
全体の割合 (%) (小数点第三以下切り捨て)		56	75	37	25	6	0

		○		△		×	
		男	女	男	女	男	女
II	30代 (男:3、女:6)	1	2	2	4	0	0
	40代 (男:2、女:2)	0	0	2	1	0	1
	50代 (男:8、女:6)	3	2	2	2	3	2
	60代 (男:3、女:2)	1	0	1	1	1	1
全体の割合 (%) (小数点第三以下切り捨て)		31	25	43	50	25	25

		○		△		×	
		男	女	男	女	男	女
III	30代 (男:3、女:6)	3	4	0	2	0	0
	40代 (男:2、女:2)	2	0	0	2	0	0
	50代 (男:8、女:6)	4	3	4	2	0	1
	60代 (男:3、女:2)	3	1	0	1	0	0
全体の割合 (%) (小数点第三以下切り捨て)		75	50	25	43	0	6

		○		△		×	
		男	女	男	女	男	女
IV	30代 (男:3、女:6)	3	5	0	1	0	0
	40代 (男:2、女:2)	2	2	0	0	0	0
	50代 (男:8、女:6)	5	3	3	3	0	0
	60代 (男:3、女:2)	3	1	0	1	0	0
全体の割合 (%) (小数点第三以下切り捨て)		81	68	18	31	0	0

		○		△		×	
		男	女	男	女	男	女
V	30代 (男:3、女:6)	1	2	2	4	0	0
	40代 (男:2、女:2)	0	0	1	0	1	2
	50代 (男:8、女:6)	2	2	1	3	5	1
	60代 (男:3、女:2)	1	1	1	1	1	0
全体の割合 (%) (小数点第三以下切り捨て)		25	31	31	50	43	18

		○		△		×	
		男	女	男	女	男	女
VI	30代 (男:3、女:6)	2	3	1	3	0	0
	40代 (男:2、女:2)	2	0	0	1	0	1
	50代 (男:8、女:6)	4	2	1	3	3	1
	60代 (男:3、女:2)	1	1	2	1	0	0
全体の割合 (%) (小数点第三以下切り捨て)		56	37	25	50	18	12

2.3. 考察

(I) ~ (VI) の例文で許容度が男女とも半数に満たなかったものは (II) と (V) である (網掛けの数値を参照)。(II) は当該行為が恩恵的な能動文で、(V) は直接受身で働きかけは「創造⁴」に属するものである。次に (III)、(IV) は被動者が不利益を受けている能動文であるが、男女とも許容度がかなり高かった (太字の数値を参照)。例文 (I) は動作主が無情物で、(VI) は動作主、被動者ともに無情物の「非情の受身文」と呼ばれているものである。(I) は (III)、(IV) と同じぐらい (女性では一番) 許容度が高かった (囲み線の数値を参照)。被動者が不利益を受けているかどうかの判断が難しいが、回答結果から多くの人が、不利益を受けていると読み取ったのではないだろうか。一方 (VI) は動作主だけではなく、被動者も無情物であり、調査結果が最も予想しにくかったものである。結果は男性で半数以上の人が使えたと答え、女性は△が多かったものの、○の数も少なくはなかった (下線の数値を参照)。秋田県は土地柄雪が多く、冬になると様々な面で負の影響を及ぼすが、そこから雪が降るということをあまり好ましくないと考えた人が多かったのではないかと考えられる。「非情の受身文」に関しては、例文を増やし引き続き調べる必要がある。

⁴寺村 (1982) は、「主体の客体に対する「働きかけ」の仕方に、少なくとも三つの型があることが認められ、その型の違いが、全体を受身文に転じたときに、発動者、つまり能動文における仕手のとる助詞の違いに反映している」と述べている。働きかけの創造に属する動詞には「作る」や「建てる」などがあり、共通語では動作主のとる助詞は「によって」である。

3. 「サガッテ」に関する調査

卒業論文で行った受身の動作主を表す助詞の使い分けの調査時に、10代のインフォーマントで、「イヌ ニガッテ カマレダ」(犬に噛まれた)という文を「イヌ サガッテ カマレダ」のように「サガッテ」という助詞を使うという人がいた。佐藤・日高(1999)は、「東北地方では、助詞「サ」が助詞「ニ」の領域へと用法を広げており、こうした変化は若年層においていっそう顕著である」と述べているが、「サガッテ」というのも「ニガッテ」の「ニ」が「サ」に入れ替わった形であると思われる。本節では若年層を対象に「サガッテ」の認知度とその用法についてアンケート調査を行う。

3.1. 調査方法

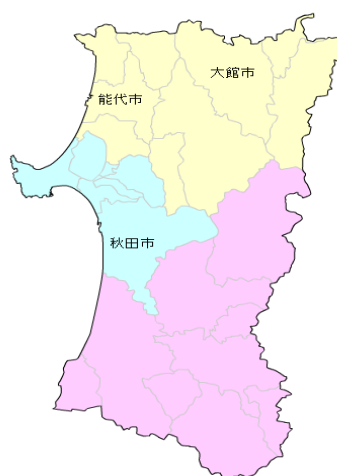


図1: 秋田県の方言区画と調査地点

インフォーマントは秋田県秋田市の明桜高校の男女15名(男10名、女5名)と秋田県能代市の二ツ井高校の男女20名(男5名、女15名)で、言語形成期を秋田県内で過ごした人を対象とした。調査は2009年10月に行った。佐藤(2000)によれば、秋田市は中央方言に属し、能代市は北部方言に属する。調査地点としてこの2箇所を選んだ理由として、まず秋田市は筆者の出身地であるのだが、これまでに「サガッテ」という助詞は聞いたことがなく、確認をする上で選んだ。次に能代市だが、これは本調査をするきっかけとなった10代のインフォーマントというのが、大館市(北部方言)の出身者であったため、大館市に比較的近い能代市を選んだ。アンケートは、助詞「ニガッテ」と「サガッテ」をそれぞれ知っているかまたは使うかという問いに対して、「はい」または「いいえ」で答えてもらい、「はい」と答えた人にも、それぞれの助詞を用いて例文を書いてもらった。アンケートに「ニガッテ」(「サガッテ」)を用いた例文は一切載せず、直接、助詞「ニガッテ」(「サガッテ」)を知っているかまたは使うかと聞いた。例文があることで、よくわからないのに、知っているまたは使うと答える人が増えるのではないかと感じたためである。本調査は「サガッテ」を知っている人がいるかどうかを調べるのが目的であるが、「ニガッテ」との関連性を調べるために、「ニガッテ」についても聞くことにした。

3.2. 調査結果

調査結果は以下の通りである。なお標準語訳は筆者による。

表2: 若年層における「ニガッテ」と「サガッテ」の調査結果

	明桜高校 (男 10 名、女 5 名)	二ツ井高校 (男 5 名、女 15 名)
「ニガッテ」、「サガッテ」どちらも知らないまたは使わない	男：9 名 女：3 名	男：5 名 女：14 名
「ニガッテ」のみ知っているまたは使う	男：0 名 女：1 名	男：0 名 女：0 名
「サガッテ」のみ知っているまたは使う	男：0 名 女：0 名	男：0 名 女：0 名
「ニガッテ」、「サガッテ」どちらも知っているまたは使う	男：1 名 女：1 名	男：0 名 女：1 名

・「ニガッテ」のみ知っているまたは使うと答えた人による例文

- (6) センセイ ガッテ ゴシャガレダ (明桜：女、出身地：秋田市)
「先生に怒られた」

・「ニガッテ」、「サガッテ」どちらも知っているまたは使うと答えた人による例文

- (7) センセイ ニガッテ ゴシャガイダ (明桜：男、出身地：大館市)
「先生に怒られた」
- (8) センセイ サガッテ ゴシャガイデオウ
「先生に怒られてさ、……」
- (9) オヤ ニガッテ イワレタ (明桜：女、出身地：秋田市)
「親に言われた」
- (10) センセイ サガッテ ゴシャガレタ
「先生に怒られた」

二ツ井高校の女性は、「ニガッテ」、「サガッテ」ともに知っているとは回答したが、例文は未記入であった。

3.3. 考察

本調査をするきっかけとなったインフォーマントを含め、わずか4名ではあったが、若年層において確かに「サガッテ」は使われているようである。例文が少なく確かなことは

何も言えないが、これを見る限りでは、基本的には「ニガッテ」と同じ意味で用いられているようである。本調査をするうえで最も悩んだのが、どのようなアンケートを作成するかであった。本調査では、「サガッテ」のみならず「ニガッテ」も知らないという答えが大半であったが、仮に始めから、「センセイ サガッテ ゴシヤガレタ」という例文を出し、このような文で「サガッテ」を使うかと聞いていたら、結果は大きく異なっていたのかもしれない。

4. 今回の調査のまとめ

以下に今回の調査で明らかになったことをまとめる。

- 「ニガッテ」は能動文でも使われ、受身の動作主を表す助詞に限ったものではない。被動者が不利益を受けることが条件のようだが、場合によっては被動者が無情物の場合でも使われる。
- 秋田県内の若年層において「サガッテ」が使用されているということを確認できた。

5. まとめと今後の課題

卒業論文は、受身の動作主を表す助詞の使い分けを調べることを目的として書き始めたのだが、そこから調査範囲を広げ、「ニガッテ」の用法と「サガッテ」の調査を行った。結果的にこちらの調査で、これまで先行研究では全く述べられていない独自の調査結果を導き出すことができたので、本稿で取り上げることにした。受身の動作主を表す助詞の使い分けの調査は、紙幅の都合上本稿では扱わなかった。「サガッテ」の調査に関しては、今回は若年層のみの調査であったが、地域によってはもしかすると、もう少し上の世代でも使われている可能性がある。引き続き秋田県大館市を中心に、調査地点を増やすなどして見ていく必要がある。本調査は全てアンケートによる調査であったが、同じようなことを聞くにしても、どう聞くかによってインフォーマントの答えが大きく変わり、改めてアンケート調査の難しさを感じた。今後は対面調査でインフォーマントの会話を録音するなど、より確かなデータを集めていく必要があると考える。

参考文献

国立国語研究所編 (2006) 『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第2巻 岩手・秋田』東京：国書刊行会／佐藤稔 (2000) 「秋田のことば 概説」大橋純一・小林隆・佐藤稔・日高水穂『秋田のことば』2-31. 秋田：無明舎出版／佐藤稔・日高水穂 (1999) 「秋田県大潟村移住者の言語変容—本格的調査に向けての準備調査報告—」『秋田大学教育文化学部研究紀要人文科学・社会科学』第54集 9-17. /寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』東京：くろしお出版／日高水穂 (2000) 「秋田方言の文法」大橋純一・小林隆・佐藤稔・日高水穂『秋田のことば』74-132. 秋田：無明舎出版／北条忠雄 (1975) 「北海道と東北北部の方言」上村幸雄・大石初太郎編『方言と標準語—日本語 方言学概説—』157-199. 東京：筑摩書房